これからのシシワナを開発

１．高い捕獲率

従来の対面落し戸式と異なる隣接２面落し戸式（図１）は、イノシシの警戒心を低下させ、また間口が広いので、同時に複数個体が入りやすい。

図１．隣接２面落し戸式箱ワナ

２．移動が容易

イノシシの行動範囲は意外と狭く、おおむね１km^{2}でそれ以上となることは少ない。すなわち被害が発生した場合できるだけ早く現場に対応した方がよい。そのために箱ワナは組み立てた状態でも軽トラック(荷台幅1410㎜)で運搬可能な設計となっている（図２）。また、一人でも手軽に運べるように分解組み立て式とした（図３）

図２．軽トラックで運べる

図３．分解組み立て式

３．対人安全性に優れる

加害イノシシは人里近くに生息していることが多い。すなわち人間、特に子供が興味をもってワナに近寄る機会が多いことを示している。そこで、誤って落し戸が落ちても足先が挟まれないように地面と落とし戸下端の間に７cmの隙間を設けた（図４）。また、人がワナに閉じ込められた場合を想定し、ワナ側面部から脱出できるように約 40 cm×70 cmの脱出口を設けた（図５）。それは捕まえたイノシシの搬出口をも兼ねる。

図４．足先を挟まない設計

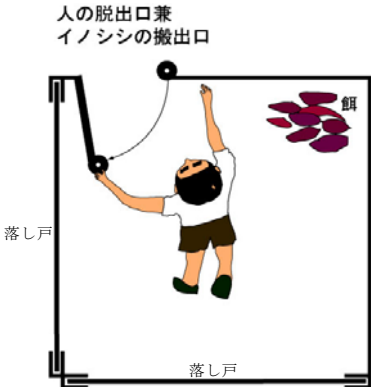

図５．脱出口の設置

被害対策のポイント

1. 捕獲効率を高めるため、イノシシの警戒心を低下させる間口の広い隣接２面落し戸式箱ワナを開発した。
2. 被害発生に即応するために、移動設置が容易な小型および分解組み立て式とした。
3. 里近くに出没する加害イノシシの捕獲を主とするため、箱ワナに対人安全設計を施した。

＜課題名＞　イノシシの行動を利用した捕獲技術の開発

＜目的＞　文献やワナ猟現場調査、猟師からの聞き取り調査などの資料から、従来のイノシシ捕獲ワナの構造や仕組みに関する知見を得、イノシシの行動特性と対応させて捕獲効率のよい新しい生け捕りワナを開発する。

＜成果の問い合わせ先＞

中園　敏之（なかぞの　としゆき）
三浦　敬紀（みうら　たかのり）
株式会社九州自然環境研究所　　野生動物保護管理研究室
熊本県菊池郡菊陽町原水 1159-5
電話　　096-232-7590
メール　ksken@sysken.or.jp